

佐友電線製造所

10.6.28  
佐友電線製造所

わが組長會はこれ迄實行委員と或程度まで行動を共にして來ましたが、實行委員の主張にては到底圓滿なる解決を得る事が難しと推察したから去る二十二日別記の決議を致しましたが、私共の趣旨を皆さんに遍ねくお知らせする爲め此の宣言書を發表します。

最近ある工場争議の例を見ましても其結果は職工側は實質上には何等得る所がなく、單に體裁上の答を得るが爲めに結局數十人の被検擧者と數百人の解職の憂目を見た犠牲者を出したに過ぎぬではありませんか私共は斯の如き悲惨な争議の結果を見ては、我が敬愛する多數職工諸君の前途や其生活の安定のためにこのまゝ黙視するに忍びません。

次に今日の如き一般經濟界不況の折柄私共職工の不安を感ずる點は失職の問題であります。其場合の保證即ち解職手當に就て會社では去る二拾三日我々に有利な規程を發表しました。私共は此點に於て不安のない事となりました。

私共は収入の比較的少い部分に屬する職工諸君の生活の餘裕の乏しい事を知つてをります。それ故是非共其收入を増加して行きたい事を希望する點に於て決して人後に落ちるものでありません。然しながら會社當局の聲明によりますれば會社の經濟は到底現在以上の増給を許さないとの事でありましてそこで私共はこの點を如何に解決すべきかにつき苦心慘澹、考へに考へたのであります。而して最後に到達した結論は「之を解決するものは唯一「誠意」あるのみ」と言ふ事でありました。誠意！それは何物をも犠牲に供するを憚りません。私共組長會員五十八名が期せずして一致した一案は甚だをこがましい申分ではあります。自分達五十八名の今後三ヶ年間に於ける昇給豫定額と之に對する割増並に期末賞與金及定例休暇に對する賃銀の全部（別表の如く總計約三萬一千圓となりませう）を投げ出しますから會社でも私共の誠意を容れて下級の方に何等かの利益を圖つて戴きたいと申し出でやうと言ふ事でありました。そして私共の決心を示す一端として直ちにこの事を會社に申し出たのであります。幸に私共の誠意は會社に通じて次回の定時昇給にはなるべく薄給者に手厚くするやうに致さうといふ事に諒解を得ました。

皆さんも私共の誠意のある所を酌まれ一切從來の行がかりを捨て私共と行動を共にして戴き、この際直ちに出勤してお互に邦家のために盡さうではありませせんか。

大正十年六月二十五日

佐友電線製造所

組長會一同

決議

事業ノ前途ト多數職工ノ幸福トヲ慮リ且着實穩健ヲ旨トスル吾人ノ主張ハ實行委員ノ主義主張ト合致セザルヲ以テ吾人ハ遺憾ナラ爾今之ト行動ヲ共ニスル事能ハザルヲ聲明ス

大正十年六月二十二日

組長會  
組長  
會  
7/11/16  
59人  
100%

過去二ヶ年間ノ實例ニ基キ定時昇給ヲ平均六錢ト假定シ本會員ノ三名を除ク（五十八名三ヶ年間ノ昇給額ヲ左ノ通り見積ル）但シ一ヶ年三百日間トシテ計算ス

一期	大正十年七月	五百二十二圓也
二期	大正十一年一月	千〇四十四圓也
三期	同 七月	千五百六十六圓也
四期	大正十二年一月	二千〇八十八圓也
五期	同 七月	二千六百十圓也
六期	大正十三年一月	三千百三十二圓也
合計		一萬〇九百六拾貳圓也

右昇給額ニ對スル獎勵加給金（五割五分）六千〇貳拾九圓十錢也  
 一ヶ年間定例休暇日數組長及職員心付十四名分九十八日、合計三百十八日、三ヶ年間合計九百五十四日  
 平均日給二圓トシテ合計金千九百〇八圓也  
 期末賞與平均見積一期約金二千圓、六期分合計金壹萬貳千圓也  
 總計 金三萬〇八百九十九圓拾錢也

昭和十年六月二十日  
 佐友電線製造所